2021(令和3)年度事業計画

2021 (令和3) 年3月13日

学校法人東邦学園

目 次

1.	はじめに	1
2.	法人の事業計画	1
3.	愛知東邦大学の事業計画	5
4.	東邦高等学校の事業計画	22

【はじめに】

2021年度は、第三期中期経営計画(2021~26年度)の初年度である。本計画では特に大学、高校ともブランディングを念頭に置いて、2年後の学園創立 100周年さらに2030年を見据えた、大学の規模拡大と国際化、高校の教育の多様化、スポーツ等の諸活動の一層の活発化を進める。これは、第2期中期経 営計画(2016~20年度)における実績に基づく。大学では「オンリーワンを、一人に、ひとつ。」のコンセプトフレーズのもと、外部環境の変化も相まって上昇に転じた。高校は着実な教学活動と全国から脚光を浴びる活動と共に培った伝統の下、『目指す生徒像』を新たに掲げて、校内への意識の浸透と、教学活動も『生徒像』につながるベクトル合わせを進めている。

こうした個々の努力の中で、法人部門が負う責任は、大学と高校が新たな100年に向けて確たる展望を持って歩める基盤を整えること、高校と大学の相互連携と協力を目に見える形で進め、学園全体を大きなブランドへと育てることである。そのためには、理事会によるガバナンス体制を明確化し、予測を超える社会構造の変化が待ち受ける次代にも、高校と大学を強い責任感と意欲を持って担える人材を育成することである。

こうした認識を持ったうえで、新型コロナウイルスの感染が今後続く中でも、学園の諸事業を大きな停滞なく進める。

2. 学校法人東邦学園 2021年度事業計画(案)

	法人の目標	大学の計画	高校の計画	法人の 2021 年度計画
1. 財務基盤の強化	財務基盤の安定化のため、	・在籍者 1,600 名を維持しつ	・安定的な生徒募集。一般受	・入学者は大学 400 名、高校 540 名
	入学者を大学は 400 名、高校	つ、2030年の産業社会を予測	験者 2000 人を目指す。	を確保することとし、顕著な少子化
	は 540 名を持続的に確保し	して必要とされる人材像を明	・100 周年後の東邦教育の礎	期にも安定した募集環境を整える。
	ながら、コスト削減に努め、	らかにし、新たな専門分野の	を築くブランディング推進と	・コスト削減に努めつつ、学園発展の
	2030 年度までに最低でも年	開拓、分野融合的な教育課程	広報の充実。	ための財務運営に当たる。
	間 3 億円程度の収支差額の	の設置などを検討して適正な	・通信制課程設置を検討する	・第三期 5 か年の財務戦略を策定す
	黒字が出せる財務体質を実	定員増を計画する。その過程	ため、調査研究を行う。	る。
	現する。そのため、第三期中	では、大学定員の厳格化によ		
	期 5 ヵ年を基礎固めと具体	る制約の下、年次ごとの入学		
	化計画の策定期間とする。	者の適正化を図りつつ、経営		
		的観点から 2,000 名規模の中		
		規模大学への成長をめざす。		

		・第三期5ヵ年の財務戦略を		
		策定し、学園全体の財政計画		
		の進捗状況を確認する。		
2. 組織の効率化、	厳しい経営環境へ対応する			・組織の簡素化の具体案を作成する。
プランニングの成	ため、組織・人事・制度など			
果の可視化、イン	の効率化を図る。プランニ			
ナーブランディン	ングと成果の可視化を通じ			
グ体制の強化	てインナーブランディング			
	の意識を強める。			
3. SD 活動の推進、	SD 活動の推進とガバナンス	・2021 年度に SD/FD 活動の推	○教職員研修の充実と教育力	・SD 研修会を年2回以上開催する。
ガバナンスの強化	体制の強化のため、東邦学	進組織を整備する。教職員の	の向上 ~教職員の「学び」	・ガバナンスコードを作成する。
	園教職員一体となった教育	SD/FD への参加率 100%をめ	を促進する~	・私立学校法の数度の改正で明文化
	カイゼン活動を推進する。	ざす。また、実施対象に対し	・TI 研修への参加促進	された理事長、理事の役割と職務へ
		てレベル評価を行うことで	・ファインドアクティブラー	の忠実義務、賠償責任を踏まえて、権
		PDCA サイクルを毎年度実施、	ナーなどオンライン研修への	限と担務を明確化する。
		自己点検評価に結びづける。	参加促進	・高校、大学、法人それぞれの次代を
		・到達目標は、マネジメント	・新人研修・新人世代への社	担う人材を、持続的に育成できる仕
		サイクルの定着。5 年間を通	会人教育の充実	組みを整える。
		じて定期的な進捗確認と中間	・公開授業・研究授業の活性	
		的な評価を行う(必要なら軌	化	
		道修正)。計画の終了時には	授業アンケートを活かす教	
		報告書をまとめ公表する。	科活動	
			・教職員研修会の充実	
4. マネジメントサ	マネジメントサイクルを充	2021年度に防災訓練を実施す		・防災訓練を実施する。
イクルの強化、コ	実、コンプライアンス機能	るなど、実行性ある防災計画、		・危機管理体制の見直しを図る。
ンプライアンス機	を確立する。災害と感染症	リスク管理体制を構築する。		

611 1 6-10/56	2 22 LL 2 on the lift total over the first			1
能の確立、危機管	などに対する危機管理体制			
理体制の確立	を整え、学園全体でのレジ			
	リエンス体制を実現する。			
5. 高大接続型カリ	高大接続型カリキュラムの	進級優遇、特別奨学金、海外		・東邦高校からの進学の優遇策等の
キュラムの開発	開発などの教育連携と課外	研修の一部無償化など、愛知		検討に着手する。
	活動を通じた一体感を醸成	東邦大学に進学する絶対的な		・高大連携授業で引き出された生徒
	し、TOHO ONE TEAM を実現す	メリットをつくる。合わせて		の関心を内部進学へ繋げると共に、
	る。	大学として出口戦略強化を図		科目等履修生制度よりは緩やかな受
		る(公務員、保健体育教員、外		講機会を検討する。
		資系など)		
6. 東邦学園ブラン	・大学から開始したブラン	既設の地域連携センターの業	100 周年のその先の東邦教	・スポーツ・文化振興局は下記の活動
ディング戦略の継	ディングが、高校さらに学	務を再確認しながら、公開講	育の礎を築くブランディン	を柱に、学園のブランディングの
続、地域貢献、創	園全体に行き渡るマスター	座、地域住民を対象とした健	グを推進する	一翼を担う。
立 100 周年	ブランド化を目標に、情報	康教室など大学の設備、人的		【クラブの競技力強化】大学の硬式野
	発信、具体的行動を強化す	リソースを活用した地域連		球部と男女のサッカー部、高校の硬式
	る。創立 100 周年を大きな節	携、社会還元サービスを充実		野球部とサッカー部、TOHO・MARCHING・
	目とし、2030 年度に東邦ブ	し、併せて多様な収益化を図		BAND が各全国大会へ出場を果たすた
	ランドを確立する。	る事業を推進する。		め、強化支援する。
	・大学、高校のリソースを活			【イベントの実施】少年野球大会、大
	用した地域社会への貢献、			学サッカースプリングカップ、ガール
	国際的な活動を通じて、学			ズサッカーフェスティバル、愛知・三
	園の存在感を一層高める。			河ユースサッカースプリングカップ、
	・学園 100 年のイメージを			売木村ミニコンサート等の大会やイ
	形作ってきた生徒と学生の			ベントを通じて、地域への貢献を果た
	諸活動を学園ブランドとし			し、学園の知名度向上に繋げる。
	て打ち出すため「スポーツ・			【積極的な情報発信】当該クラブの試

	Г		T	T
	文化振興局」の諸活動を活			合結果やイベント、所属選手(OB・OG
	発化する。			含む)等に係る動きを Web ページで積
	・学園 100 周年にまつわる			極的に学内外に発信し、ブランディン
	諸事業、計画をまとめ、寄付			グに寄与する。
	活動を始める。			【地域スポーツクラブの拡充】学生に
				学修実践の場を提供し地域貢献活動
				の充実を図るため、高齢者向け体操、
				ヨガ、太極拳の教室を新規開講する。
7、キャンパスの総		2021年度中に構想案を取りま	・ICT 活用促進、探究学習の	・キャンパスの基本構想案を取りま
合的将来構想		とめ、順次、1) 既存施設の修	促進を支援する環境整備	とめる。施設と設備は高校と大学が
		繕計画、2) 既存施設の改修	・部活動生徒も参加できる	共用することも念頭に置く。
		計画、3) 隣接地の再開発計	放課後の学習環境・体制整備	
		画などについて、それぞれキ	の検討と実施。	
		ャッシュフロー分析、資金計		
		画に基づいて取りまとめ、順		
		次実施可能なものから詳細設		
		計し実施する。なお、東邦高		
		校および日進グラウンドなど		
		の修繕・改修計画も併せて検		
		討する。		
8、多様な人材登用		2021年度に人事5ヵ年計画と	オンライン研修も含めた内	・人事政策の基本方針(採用・研修・
		して人事政策の基本方針(採	外研修への参加促進	評価等)を策定する。
		用・研修・評価等)を策定し、		
		2022 年度から順次実施する。		
		また、在籍出向型採用など新		
		たな雇用制度も推進する。		
			l	

3. 愛知東邦大学 2021 年度事業計画(案)

戦略	ドメイン一教育	デプログラムー		中期目標	中期計画	2021 年度事業計画	進捗状況
No.	項目	関連する 戦略ドメイン	取り組み名称 (取組体制)	目標概要	ロードマップ	【担当部署】)
1	教養教育のための基盤的 教育システムの整備	a, f, h	Toho liberal arts	愛知東邦大学で育成する人材に共通する教養科目を整備する。専門分野の枠を超えて共通に求められる知識や思考法などの知的な技法の獲得や,人間としての在り方や生き方に関する深い洞察,現実を正しく理解する力の涵養など,新しい時代に求められる教養教育を確立する。実践的知識、学問を活かし、様々な問題を解決する能力を涵養する科目群を選定し、全学体制にてきめ細やかな共通教育を実施する。 本学における教学マネジメント体制を確立し、教養科目群の全学的な責任体制を明確にするとともに、学部に共通する基盤的知識のみの習得から脱却して本学の個性をアピールする目玉的カリキュラムとしての役割へ移行する。 持続可能な開発目標 SDGs の課題に学生自ら取り組む姿勢を涵養する教育を実践する。	2020年度の教育政策委員会での議論を踏まえ、リング制を有効に活用した、学生自らが構築する系を整備のもいる。2021年度施新カリキュラムを検証、度に新カリシー、を検証、度に新カリシー、ができながである。2022年のの表でである。では、第ローバスを表に、第ローバスを表に、では、第ローバスを表に、ののでは、ののでは、ののでは、ののでは、ののでは、ののでは、ののでは、のので	・全学共通科目の新たな管理体制を構築する。・前期中に新カリキュラム案を策定する。 【教養教育運営委員会】	

				IR 整備:学生のデータ活用(統一データ)のグ	国内において先行研究が進	学生のデータプログラム	
				ランドデザインの設計と、本学固有のデータ分	んでいる京都大、神戸大、九	開発に向け、他大学との	
				析実験(研究)、教育指導への応用(教育)なら	州大などとの共同研究によっ	連携を検討する。	
				びに実証結果に基づくソフトウェア開発(ライセ	て推進する。本学学生データ	【教学マネジメント本部・	
				ンシングを前提として複数の大学と共同開発	の管理運用における新たな	デジタル推進会議】	
				(社会実装)という3領域を柱に、IR 推進の取	指針を定め先進的研究へ進		
				組レベルを 5 年以内に東海地区トップレベル	むインフラ整備を行う。2023		
				に押し上げる	年頃を想定して IR3.0(ソフト		
					ウェア開発)に進み、ライセン		
					シング事業をイープロに引き		
					継ぐ。同時に教育・管理業務		
	学生データを		IR2.0 project for		のデジタル化を推進する。教		
	活用した学修		Taylor-made		育プラットフォーム(Google,		
2	者本位の学び	a, b, c, h	education		 MS の決定)、クラウドを前提		
	の環境整備				とするデータ管理体制への移		
					│ │ 行、個人情報管理・セキュリ		
					 ティ対策の強化を行うため		
					に、学園法人に CTO とセキ		
					ュリティ専門家を置く。		
				学生ポートフォリオ: IR2.0 プロジェクトで整備	2021 年度に基礎的な検討を		
				した統一データシステムによって取得するデー	 開始し、2022 年度には学修		
				 タを活用し、中教審「高等教育グランドデザイ	 目標の達成度評価のための		
				ン」における「学修者本位の教育」を実現する	 ルーブリックを作成、学生デ		
				 ことを目標として、学修成績履歴に基づく学生	 一タを活用した学生ポートフ		
				 ポートフォリオを整備する。また、学修成果評	 _オ リオシステムを設計する。		
				 価のため、ルーブリックに基づく評価システム	2023 年度から試行的に実		

				を整備する。これにより、本学がめざす人材教育目標「学生一人ひとりにマッチしたテーラーメイド教育システム」を構築する。	施。2024 年度から本格的実施。		
3	分野横断的な 学際融合教 育システムの 構築	a,f,i	学位プログラム制教育 課程の導入	社会ニーズに対応して、専門分野横断的な柔軟なカリキュラム編成を可能とする教育システム(学位プログラム制)を構築する。複数の学部を融合したコースワークを設計し、学位プログラム制の導入を図る。	2021 年度に社会ニーズの調査を実施、それに基づいた学部横断的な教育内容について検討し、2022 年度にカリキュラム設計を行う。2023 年度入学生から導入。	・プログラム導入に向け制度設計する。・学際的融合分野の領域を検討する。【教学マネジメント本部・デジタル推進会議】	
4	データ社会に おける次世代 型人材育成 のための環境 の整備	a, c, h	数理・データサイエンス 教育の整備・充実	国の「AI 戦略 2019」において①文理を問わず、全ての大学・高専生約 50 万人卒/年が初級レベルの能力を習得すること、②大学・高専生約 25 万人卒/年が、自らの専門分野への応用基礎力を習得することが目標が掲げられ、全ての大学における基礎教育での必修化が義務づけられた。これを受けて、名工大、愛知県立大、名市大、愛知工業大などと連携して初年次を対象とした情報数理教育の開発が進んでいる。これに基づき、本学に、初年次向け情報数理科目を設置する共に、経営学部においては、応用基礎力を習得するための科目を開発する。	2021 年度に導入のために教 員体制を整備し、カリキュラ ムについて検討、授業設計を 行う。2022 年度入学生から 情報数理基礎科目を開設、 2023 年度から経営学部 2 年次を対象とした応用基礎 科目群を開設する。なお、経 営学における数理・データサ イエンスのニーズ動向を見据 えながら、地域産業社会のニーズに対応した経営情報分 野での学科あるいはコース 新設などを検討する。2023 年度開設に向けて連携大学	・融合領域を検討する。 ・カリキュラムおよび教員 配置を策定する。 【教学マネジメント本部・ デジタル推進会議】	

					との FD を通じて得たノウハウを活かして基礎科目を開設する。学科あるいはコースを開設するにあたって必要かつ適正な体制の整備などについて予算措置などを含めて検討する。		
5	高度専門的 職業人養成 のための教育 環境整備	a,d,e,f,i	ビジネス系専門職大学 院設置	高度実践的ビジネス系人材育成のための専門職大学院を設置する。学部卒業生、社会人、外国人留学生など多様な学生を対象とし、社会人のための短期履修コースも併設する。	2021 度に設計、2022,23 年 度に設置準備、2024 年度に 開設をめざす。	・マスターコースの内容案 と基本的なコースコンセ プトを策定する。 【教学マネジメント本部・ デジタル推進会議】	
6	社会人教育のための環境整備	a, e, f	リカレント教育 2.0	既設の職業実践力育成プログラムのプログラムを見直し、よりニーズの高い教育内容による高度専門履修コースを学部において開設する。さらに、新たに設置するビジネス系専門職大学院においても社会人履修コースを設置して、社会人の多様なニーズに応える高度専門職業人養成のための教育環境を警備する。	2022 年度開始で年間 200 万円以上の収益構造を検討 し、2025 年度に広報費を含 む全ての収支で黒字となるシナリオを作成する。教養教育 及び専門教育のオンライン授業の常設化と同時変更で検討する。合わせてオンライン専用の非常勤雇用などの、 教員起用の多様化を図る。	・FS 調査を実施し企業側からの情報を収集する。・新たなプログラム案を策定する。【地域・産学連携センター運営委員会】	

戦略	ドメインー!	学生支援一		中期目標	中期計画	2021 年度事業計画	進捗状況
No.	項目	関連する 戦略ドメイン	取り組み名称	目標概要(5WIH)	計画内容	【担当部署】	延抄 1人儿
7	a, b, e キャリア 形成教育 の支援体 制整備	a, b, e	テーラーメイド型キャリア教育	学生・キャリア支援課の機能を拡充するための学生支援体制の整備を行う。また、低学年向けのプレ・インターンシップの導入、採用の早期化および通年採用を見据えた長期インターンシップなどの導入など実践的なキャリア支援教育の充実を図る。中部経済連合会、中部経済団体との連携により共同プログラムを構築する。また、地域経済圏で強く求められているベンチャーマインドを持つ人材の育成を目的として、実践的アントレプレナー教育を導入する。学修履歴および生活実態などの学生データに基づく学生ポートフォリオを活用し、学	2021 年度に現行体制の点検を行い、採用の早期化・通年化に伴うキャリア支援機能の検討を行う。2022 年度から体制を整備。また、2021 年度に既設のインターンシッププログラムの検証を行い、2022 年度以降に全学共通教育、キャリア教育など総合的にカリキュラムの見直しを図る。アントレプレナー教育については、他大学との連携を図る。 IR 機能を活かし、学生統一データに	・キャリア支援プログラムの新たな管理体制を構築する。 ・現カリキュラムの見直し案を策定する。 【キャリア支援センター運営委員会】 ・IR機能を活かした進路サポートを検討	
		a,b	東邦 STEP(資格取得のための支援)の充実	生にとってベストな進路を見つけるための 「学生一人ひとりにマッチしたテーラーメイ ド型サポートシステム」の構築をめざす。 東邦ステップによる資格取得支援体制の 拡充をはかる。具体的には学生の関心を 意欲に変えるための魅力ある新規プログ ラムを開設する。正課科目との接続性につ いても検討。	基づくキャリアサポートについて検討する。2023年度から試行的に実施。2024年度から本格的実施。 まちづくり、観光、防災、地域とスポーツなど、今後公務員行政職希望者の学びと関わるプログラムについて正課科目との接続性を考慮し、キャリア形成のための科目群として整備	連路サポートを検討する。【キャリア支援センター運営委員会】・新たなプログラムを検討する。【東邦 STEP 運営委員会】	

8	自立した環境を当まる活制の強力を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を	a,b	Campus Life 2.0	学生の大学生活満足度調査を基づいて、 キャンパスライフの質的向上をめざして福 利厚生環境を整備する。具体的には食 堂、購買の見直しなど。また、トーイックな ど外国語試験へのチャレンジを促すため の支援体制を構築する。	していく。2022 年から順次導入を検討する。 2021 年度中に生協との契約を再点検し、イープロの業務などを確認しながら食堂および購買での学生福利厚生体制について検証、学生にとってベストな環境を整備する。正課の英語教育との接続性を考慮しながら、課外での語学力向上のための支援について検討。e-learningの活用についても検討する。	・学生満足度向上のため、学生食堂の見直しを図る。・学びの意欲を促すための環境を構築する。 【学生委員会】	
				生による低学年生へのピアサポート体制を構築する。	2021 年度中に実現する。	構築する。	
9	学生の活 躍支援体 制の整備	a,b,i	TOHO academy award	既設の指定強化クラブ制度、スポーツ・音楽推薦による入学制度など学生の能力を活かし、開発するための教育施策を Tohoブランドの向上に活用するための仕組みについて検討する。また、課外活動において顕著な成績を上げた学生を表彰するな	2021 年度にブランディングタスクフォースにおいて検討を開始し、順次導入を目指す。	・課外活動における学 生表彰などを検討し、 順次導入を目指す。 【学生委員会】	
				ど、学生が自立的に活躍できるような基盤 的な仕組みについて検討する。			

	年1回、2月に優秀学生表彰を行う。カテゴリーは学業成績、スポーツ、Arts、研究発表、社会貢献、学内コミュニケーションの6部門。各部門へのエントリー条件、審査要件は部門別設計。狙いは金銭ではなく、名誉による学生の主体的取組の活性化。得意な部門にエントリーできる。例:新しいサークル設立、ボランティア、学会発表、公式戦での活躍、成績などを増やす。受賞者は記念パネルに名前を永久に残す。学内のさまざまなタレントにスポットライトを当て、学生間の認知形成を促す。何を学ぶかだけでなく、大学にどう貢献したかを考える習慣をつけることで、主体的な行動を促し、自己成長と社会性の獲得につなげる。ゼミ単位で推薦者を募るなどの応用運用も可能。	2021 年度より順次開始。奨学金以外の学生の表彰制度の再設計。部門によっては該当者なしという結果の年度もある。あくまで活躍した学生を残す。学部単位での割り当てなど設定しない。アカデ三一を在学中に2回以上獲得した学生は、卒業式に特別表彰を行う。	・学生表彰制度を設計する。 【学生委員会】	
--	---	--	-----------------------	--

戦略	ドメイン一環	境整備·DX—		中期目標	中期計画	2021 年度事業計画	進捗状況
No.	項目	関連する 戦略ドメイン	取り組み名称	目標概要(5WIH)	計画内容	【担当部署】	连抄认从
10	次世代型 授業の確立	a,c,e,h,i	次世代型教室の実現	愛知東邦大学版 GIGA キャンパス構想を 実現する。対面およびリモート形態のメリットを最大化するために、対面式授業とリモート授業のブレンド型授業の積極的に導入することで授業方式のリモート化について検討し、リアルノバーチャル教室の確立をめざす。また、学生の学修履歴のデータベース化、顔認証による出欠管理、学生の動線分析、などデータ活用のためのシステムを確立する。BYOD 方式の全学導入に合わせカリキュラムの点検・再編を行う。	2021 年度入学生への PC 必携化にあわせ、全学的に PC 必携化を推進する。2021 年度に学内情報環境整備のための中長期的な予算計画を策定し、順次年度ごとに措置する。2020 年度後期授業の実績の評価点検から、2021 年度から部分的リアル/バーチャル教室を導入。また、本学でのスタンダードとなる LMS の導入についても 2020 年度中に検討し、2021 年度から順次導入。	・ICT 化戦略の組織 体制を整備する。 ・BYOD の 2 年次以 降への拡大とサポート体制を強化する。 【教学マネジメント本部・デジタル推進会 議】	
11	キャンパス の総合的 将来構想	all domains	Campus planning for 2030	既存施設の修繕計画については年度計画に基づいて実施する。一方、老朽化ビルの改修・改築計画および隣接地の利用・整備などについては2030年を目途にキャンパス総合将来構想に基づいて検討する。プロジェクトには外部から建築計画およびファイナンシャルプラナーなどの専門家を参加させ、財政計画と合わせて構想案を策定する。それを基に2025年度までに実現可能な中期計画を2021年度中に立案	2021 年度中に構想案を取りまとめ、順次、1) 既存施設の修繕計画、2) 既存施設の修繕計画、3) 隣接地の再開発計画などについて、それぞれキャッシュフロー分析、資金計画に基づいて取りまとめ、順次実施可能なものから詳細設計し実施する。なお、東邦高校および日進グラウンドなどの修繕・改修計画も併せて検討する。	・キャンパス再計画案 を策定する。 ・新キャンパスを構想 する組織を立ち上げ る。 【キャンパス構想wg】	

				し、資金計画を含めて総合的に策定、実施			
				する。			
						・業務内容の仕分け	
	業務のデジ	Toho Digital	業務の RPA/BPO などを促進し、セキュリ	早期に中長期的な財政計画を立案	および効率化策を検		
12	タル化と	a h i	Transformation	ティ強化、業務運営の効率化、省エネ、リ	し、2021 年度から年間予算配分に	討する。	
12	ICT 環境の	c,h,i	Initiative	モートワークなど職場環境総体のデジタル	基づいて取り組み領域を決定して順	【教学マネジメント本	
	整備			化を推進する。	次整備していく。	部・デジタル推進会	
						議】	
				エネルギー消費の実態を再点検し、省エ		・エネルギー消費の	
13	環境改善へ	o h i	省エネルギー対策	ネルギー計画を作成。また、空調設備の	イープロへの業務委託として実施す	実態を再点検する。	
13	の取り組み	c,h,i		高効率化設備への転換を図るなど環境改	る 。	【総務課】	
				善活動を積極的に推進する。			

	戦略ドメイン一	国際化一		中期目標	中期計画	2021 年度事業計画	進捗状況
No.	項目	関連する 戦略ドメイン	取り組み名称	目標概要(5WIH)	計画内容	【担当部署】	25 7000
14		a,b,d,f,	留学生の入学機会 の拡大	中国からの編入学生などを対象とした国際ビジネス学科を中心とする特別コース(秋入学も視野に入れる)など学部の特色を生かした教育プログラムを設けるなどして、留学生の入学機会を拡大する(愛知東邦大学版アジア人材構想)。	2021 年に内容を検討し制度 設計、2022 年度入学生から 受け入れる。	・新たな教育プログラムを検討する。 【国際交流センター運 営委員会】	
	TOHO Global Initiative(Post COVID-19)	a,b,d	グローバル化に資 する人材の育成	コミュニケーション力として語学力(英語力)を実践で活用できる、愛知東邦大学生としてのアイデンティティ,柔軟な対応力、異文化理解力,価値創造力を有して自らの人生観、世界観を持ち、現場における行動力を発揮できる実践力をもつなど、グローバル化社会で活躍する人材の育成を行う。	外国語教育の強化、海外研修・インターンシップなどのプログラムを充実する。	・新設する国際交流センターで各種プログラムについて設計する。 【国際交流センター運営委員会】	
		a,b,d	海外の大学等との連携拡大	留学生の確保、海外研修先の確保などを確実とするため、海外の大学との連携を拡大することで人的交流(外国人研究者の招聘、在外研究員制度など)を活発化し、併せて、大学のグローバル展開を進める。	2021 年度における中国の大学等との協定締結を足掛かりに、順次、東南アジア、欧州、米国との連携協定の締結を学長トップ外交によって実現する。	・海外の提携拡大に向け検討を開始する。 【国際交流センター運営委員会】	
		a,b,d,e,h,i	国際交流センター の設置	TOHO Global Initiative を主体的に推進するために、国際交流センターを設置する。	2021 年度に制度設計、 2022 年度に開設。	・センターを開設する。	

戦略	ドメイン一研究	•社会貢献一	中期目標		中計画	2021 年度事業計画	進捗状況
No.	項目	関連する 戦略ドメイン	取り組み名称	目標概要(5WIH)	計画内容	【担当部署及び責任者】	连抄认从
15	研究力の底上げ支援	e,f,i	独創的研究の推進と研究成果の発信	大学としての研究戦略を定め、専門分野を超えた独創的な研究テーマをプロジェクト化、指定研究として予算配分する。また、併せて、教員からの意欲的な研究を公募によって集め、予算配分する。こうした学内研究推進経費制度を設けるなどして研究力強化のための支援を行う。 科研費を含む外部研究資金の獲得をめざし、金	2020-21 年度中に様々な支援制度を検討、設計し、2022年度から順次を開始する。	・公募型学内研究推進制度を新設する。 【研究活動・倫理委員会】	
		e,f,i	外部資金の獲得を 奨励するための研 究支援体制の構築	科研員を含む外部研究員並の復得をめるし、並 額及び内容に応じたインセンティブ付与につい て、授業負担軽減等も視野に入れながら検討す る。	2021 年度中に援制度を検 討、設計し、2022 年度から 順次を開始する。	計する。 【研究活動・倫理委員 会】	
16	地域社会との連携による社会実装研究の推進	a,e,h	地域連携による研 究拠点の形成(地 域創造研究所 2.0)	地域創造研究所の機能と役割を拡充するため、 愛知東邦大学版の産学官連携センターを設置して、本学の独創的な研究を地域との共同研究活動に繋ぎ、大学有する知的リソースの地域への社会還元を通じて、社会実装の実現や外部資金獲得を目指し、本学の研究領域の核となる体制を形成する。自立的な予算執行、運営体制をめざす。	経営学部地域ビジネス学科 単独時代に発足した現研究 所を時代に即した本学の研究活動の象徴化する。学部 の学際研究領域、共同研究 領域を設計し、社会実装や企業研究とのシンクロ化を図 る。個人レベル、大学レベル の研究メニュー化と予算配分 を見直す。例:女性×生涯スポーツ、先端技術×ヘルスケア、デジタル×幼児教育、防災×地域メディア、シビックプ	・地域課題の把握調査を実施する。・データベースシステムを構築する。【地域創造研究所】	

_		1	ı	I	I	1	T
					ライドXシビックデータなど。		
					同時に大学・研究所としての		
					外部ネットワーク、共同研究		
					の機会を増やす。名工大(デ		
					ータサイエンス)、広東外語		
					大学南国商学院(現代中国		
					社会研究)など、提携する対		
					象(企業・他教育機関)を選		
					択、予算付加を行う質的検証		
					を行う体制と、広報体制を一		
					│ │ 元化する(独自の HP 保有、		
					 定期的情報発信など)		
				地域の中小企業などと研究開発テーマについて	2021 年度に内容を検討、制	・地域産業界との共同	
			地域産業界との連	マッチングを図り、教員が4年生を主体としたゼ	度設計し、2021 年度から地	研究の仕組み検討す	
		a,e,h	携を活用した実践	 ミ学生とともに研究プロジェクトに参画すること	域企業(Toho フレンズを中	る。	
		, ,	的教育の推進	 で、教員・学生・企業人が互いに学び合う共同研	心として)を対象としてテーマ	【地域・産学連携センタ	
				 究開発プロジェクトを推進する。	を公募する。	一運営委員会】	
				既設の地域連携センターの業務を再確認しなが		・地域連携のテーマを	
	大学リソースの		Social	 ら、公開講座、地域住民を対象とした健康教室		健康や防災に転換す	
17	地域への社会	a,e,h,i	contribution	 など大学の設備、人的リソースを活用した地域		る。	
	還元	, - , ,	2.0	 連携、社会還元サービスを充実し、併せて多様		【地域・産学連携センタ	
				 な収益化を図る事業を推進する。		一運営委員会】	
		l	J		l .		

戦闘	各ドメイン一入	.学者選抜一		中期目標	中期計画	2021 年度事業計画	進捗状況
No.	項目	関連する 戦略ドメイン	取り組み名称	目標概要(5WIH)	計画内容	【担当部署】	连抄认况
18	入学者の確保 並びに入学者 選抜方法の改 善	a,c,f	多様な入学者セグメント再編	女子学生の増員、中部圏以外の地方などから入学者の増員をめざす。また、オンライン授業を主体とするリカレント教育コースを設置し、社会人の入学機会の増大を図る。さらに、留学生向けの特別コース(大学院進学コース)などを設置することで海外から新たな入学者を発掘し、セグメントを再編することで、少子化に向かう中入学定員および収容定員の安定的な確保に努める。	女子推薦枠、同窓生推薦 枠について 2021 年度に検 討し、2022 年度に制度設 計、23 年度に導入をめざ す。留学生向けのプログラ ムは 2021 年度の設計、22 年度に導入。社会人向けリ カレント教育については 2021 年度にニーズ調査、 基本設計を行い、22 年度 後期の開講をめざす。な お、その場合、リモート形式 による授業を推奨する。	・学生募集マーケティング戦略推進組織を新設する。 ・学生募集マーケティング戦略を策定する。 【学生募集戦略推進プロジェクト】	
		a,b,f	入試制度改革	データ分析に基づき、入試方法を見直し、総合型選抜入試枠を改善して愛知東邦大学独自のユニークな入試を行なうなど、高校生が学力でない自分の力を試してみたくなる入試を開発する。併せて東邦 STEP による特別選抜とつながるコース設定をするなどして東邦高校との高大接続をより緊密化する。	入試委員会の下に入学者 選抜方法等検討 WG を立 ち上げ、2021 年度に検討 を開始し、2024 年度入試 から順次導入する。	・入試のデータ分析・検証を行う。 【入試委員会】	

	戦略ドメイン	一高大接続一	中期目標		中期計画	2021 年度事業計画	進捗状況
No.	項目	関連する 戦略ドメイン	取り組み名称	目標概要(5WIH)	計画内容	【担当部署】	足抄认从
19	東邦学園教育	a,f,g	高大接続カリキュラム	東邦高校の普通科コース、国際探究コース、人間健康コースを想定したプログラム(教養・専門)を用意し、東邦高校生の進学先としての選択機会を増加させる。内部進学者数を現在の40~50名を5年後に倍増させる	進級優遇、特別奨学金、海外研修の一部無償化など、 愛知東邦大学に進学する絶対的なメリットをつくる。合わせて大学として出口戦略強化を図る(公務員、保健体育教員、外資系など)	・高大合同FDを検討する。 【高大連携会議】	
	システム	all dmains	TOHO ONE TEAM	東邦アイデンティの醸成を目的として、東邦 学園建学の精神を再認識し、東邦学園とし てのブランディング戦略を推進する。大学の ブランドが高校を引き付ける、という発想か ら大学が学園をけん引するという発想への 転換を図る。	ブランディング戦略の中で検 討していく。	・学園ブランド構想を策定する。・学園ブランドの意識調査を実施する。【ブランド推進委員会】	

戦略	戦略ドメイン―組織行動・人事制度			中期目標	中期計画	2021 年度事業計画	進捗状況
No.	項目	関連する 戦略ドメイン	取り組み名称	目標概要(5WIH)	計画内容	【担当部署】	连抄认从
20	教職員の教育能 カ向上のための 教育システムの 整備	a,c,e,h	SD/FD mapping	愛知東邦大学における大学改革の推進を目的として、教員 FD, 教職員一体の SD, 学生連動型の FD など、本学の自己改善機能のマップ化と情報公開を推進し、授業方法やカリキュラム内容を改善・向上させるための組織的に取り組むとともに、大学業務・運営を継続的、安定的に遂行するために必要な能力と資質を向上させる。	2021 年度において SD/FD 活動の推進組織を整備する。教職員の SD/FD への参加率 100%をめざす。また、実施対象に対してレベル評価を行うことで PDCA サイクルを毎年度実施、自己点検評価に結びづける。	・FD/SD の管理体制を 構築する。 ・FD/SD の新たなプロ グラム案を策定する。 【FD・SD 委員会】	
21	組織・運営体制 の改善	a,c,e,h,i	Disruption day workshop	新しい大学像の価値観共有による意識改革 を促進し、ティール組織への移行を目指す	2021 年第三期5ヵ年計画の 初年度から、全学集会を補 完するワークショップを実施	・意識改革を図るため のワークショップを実 施する。 【FD・SD 委員会】	
22	多様な人材の登用	a,c,e,h,i	Diversity & inclusion	特任教員、クロアポなどの多様な雇用方式、 外国人採用など多彩な人材確保・育成の推 進	2021 年度において人事5ヵ 年計画として人事政策の基 本方針(採用・研修・評価等) を策定し、2022 年度から順 次実施する。また、在籍出向 型採用など新たな雇用制度 についても推進する。	・ダイバーシティ推進を 検討する。 人事制度改革案を策 定する。 【教学マネジメント本 部・デジタル推進会 議、人事委員会】	

23	ガバナンス体制の確立	c,h,i	ガバナンス 2.0 (Double PDCA)	中長期計画の行動を計画化し(実行可能なヒト・モノ・カネの見通しと推移)、年次ごとの予算計画と行動計画の一体的運営を図るため、計画立案と意思決定プロセス、工程管理を見える化し、管理する体制を構築する。そのためのマネジメントサイクル機能を十分に機能させるため、監事監査とIR機能との関係を強化し、ステークホルダーからの意見を教育の質保証への参考にする。	到達目標は、マネジメント サイクルの定着。5年間を通じて定期的な進捗確認と中間的な評価を行う(必要なら軌道修正)。計画の終了時には報告書をまとめ公表する。	・大学経営の戦略グループを形成する。・戦略マップの作成 【教学マネジメント本部・デジタル推進会議】	
24	防災・リスク管理 体制	c,h,i	リスク管理体制の 構築	防災体制の検証。コロナウイルス対策を通じて得られた経験を活かし、危機管理体制を構築する。リスクマップおよび対応マニュアルの作成、コンプライアンス体制の検証など。	2021 年度に防災訓練を実施するなど、実行性のある防災計画、リスク管理体制を構築する。	・防災訓練を実施し、 防災体制を検証する。 【総務課】	

	戦略ドメインー	-財務強化一		中期目標	中期計画	2021 年度事業計画	進捗状況
No.	項目	関連する 戦略ドメイン	取り組み名称	目標概要(5WIH)	計画内容	2021 平及事業計画 【担当部署及び責任者】	進抄认沉
25	経営安定化	a,d,f,g,i	定員計画レビュー	安定的な収容定員の確保、外部資金の獲得、事業収益の増大など健全な財政運営について計画立案し、適正な定員の決定、教育設備への投資など収支バランスの均整化図りながら、大学改革を断行しながらも規模に応じた「身の丈に合った経営成長戦略」を経て、2030年には中規模大学として位置づけられる大学へと成長する。	2021 年度からの入試状況を見ながら入学者数 1,600 名を維持しながら、2030 年の産業社会を予測して将来必要とされる人材像を明らかにして新たな専門分野の開拓、分野融合的な教育課程の設置などを検討して適正な定員増を計画する。その際、大学定員の厳格化による制約下の中において年次ごと定員の適正化を図りつつ、経営的な観点から 2,000 名規模の中規模大学への成長をめざす。	・定員管理レビューにより基本戦略を策定する。 【教学マネジメント本部・デジタル推進会議】	
26	財政計画	a,d,f,g,i	投資·資金調達計画	収容定員 1,600 名維持を前提として、 投資計画及び第三期5ヵ年計画に基 づく資金調達計画づくり	2020 年度内に投資案件の優先順位づけ 第三期5ヵ年の財務戦略の策定 学園全体での財政計画の進捗 状況を確認	・中期計画の各プロジェクトを予算化する。 【教学法人会議】	
27	多様な収入資源 の構築	e,h,i	外部経済活用	愛知東邦大学発のベンチャー企業の 積極的な推進など、収益化を図るため に外部組織を活用し、多様な収益化を 図る。	2021 年度 TLH 再開後の収益モ デルの検証、イープロの事業機 会の増大化	・イープロ事業の強 化計画を策定する。 【教学法人会議】	

2021年度 東邦高等学校事業計画(案)

2021 年度、東邦高校の 5 か年計画である「第三期中期経営計画」がスタートする。今後の 5 年間は東邦高校にとって、「目指す生徒像」に向けての新たな教育をスタートする重要な 5 年間である。また 2023 年度には学園・高校が 100 周年を迎え、その先の一層の発展を期するための助走の期間でもある。

「第三期中期経営計画」のもとでの2021年度「事業計画」として、まず意識したいのは、今年度が、本校生が巣立つソサエティ5.0・持続可能な未来社会を創り上げる将来の構成員として育てたい生徒像である、「東邦高校 目指す生徒像」に向けて、教職員がベクトルを合わせて教育活動を具現化する実質的なスタートであることだ。既に「第2期中期経営計画」最終年度2020度から、各部署の年度目標に「生徒像」を掲げその教育を意識してきたが、「第三期中期経営計画」は計画そのものが、「目指す生徒像」の育成を教育活動の柱に据えており、今年度から私たちは「目指す生徒像」に向けて、授業・課外活動の様々な場面でより一層積極的な教育改革を進めていくことになる。

「自分で考え自ら行動する生徒、他者と共に歩む生徒、強い心で挑戦する生徒」の生徒像については、主に部活動や生徒会活動などの自主活動で育成するものだと思われるきらいがあるが、授業や HR を生徒像育成の中心に据えることをここで明記したい。なぜならば授業と HR こそが本校生全員に実施する、学校教育の根幹だからである。授業や HR の中でいかに「生徒像」育成に向けた取り組みをするのか、今年度はまず「目指す授業像(仮称)」を各教科で検討し、年度内に明文化、各教科・教職員相互で確認し合う機会を持ちたい。

そして、次年度 2022 年度から新学習指導要領のもとでのカリキュラムがスタートする。新学習指導要領総則第 1 款「高等学校教育の基本と教育課程の役割」3には「豊かな創造性を備え持続可能な社会の創り手となることが期待される生徒に、生きる力を育むことを目指すにあたっては、学校教育全体及び各教科・科目等の指導を通してどのような資質・能力の育成を目指すのかを明確にしながら、教育活動の充実を図るものとする。その際、生徒の発達の段階や特性等を踏まえつつ、次に掲げることが偏りなく実現できるようにするものとする。(1)知識及び技能が習得されるようにすること。(2)思考力、判断力、表現力等を育成すること。(3)学びに向かう力、人間性等を涵養すること。」とある。新教育課程のもと、「目指す生徒像」育成に向けた東邦教育を進化できるよう、今年度、カリキュラムを決定することになる。

<u>また、2023</u> 年度に学園は 100 周年の節目を迎えるが、その準備もいよいよ具体化・本格化する年度になる。学園 100 周年はまさに高校にとっての 100 周年でもあり、その準備には、多くの教職員の力を借りて、意欲的・主体的に関わっていきたい。意気高く 100 周年を迎えるためにも大学とこれまで以上に緊密に連携し「ONE TEAM」で進んでいきたい。

1. 学力向上(教務・メディア情報・進路・教科)

「自ら考え、学ぶ|姿勢の涵養

- (1)「主体的・対話的で、深い学び」の推進
 - ①各教科で<u>「目指す生徒像」「伸ばしたい力」育成のための「目指す授業像」</u>を明文化・具体化し、「目指す授業像」を体現する実践を積み重ねていく。

自分で考え、自ら行動する」力を育てるために伸ばしたい力

~「生徒像会議」まとめ資料より~

論理的思考力 知識情報活用力 先を見通す力 表現力 発信力

コミュニケーション能力 自己分析力 リーダーシップ 円満な常識

②「総合的な探究の時間」の体系化

1年次の「クエストエデュケーションプログラム」に始まる全学年の「総合的な探究の時間」を「探究活動」を軸に再編・体系化する。

- ③「主体的・対話的で、深い学び」をテーマにした教員相互の公開授業・研究授業の活性化。
- (2)「学びに向かう力」の育成
 - ①ICT を効果的に利用し、探究活動や個々の生徒の段階に応じた学習活動を行い、主体的に学ぶ姿勢を育てる。
 - ②面談指導の強化

学習面談を重視し、生徒自身が自分の言葉で学習・成績・進路について語る機会となるようにする。 面談での内省を通じて、自ら学習 面の課題に気づき、その克服に向けて自ら考え、学ぶ姿勢を育てる。

③進路ガイダンスの充実

生徒が志を抱いて自分の進路に向き合えるよう、「先輩に聞く進路ガイダンス」などの新設を検討する。その際、委員会を作り、持続

可能で体系的なガイダンス設定を目指す。

- (3) 新たな学力向上体制の推進
 - ① 2021年度中に「新学力向上プロジェクト」各部門発足を目指す。
- (4) 検定合格者を増やす
 - ①英語検定準2級を全員に。準2級取得者は全員2級合格を目指す。
 - ②新たな検定も含め、各種検定試験に積極的に取り組む。

2. キャリア教育の充実と進路希望実現(進路・教務・教科・学年)

「強い心で挑戦する進路開拓を |

- (1) 愛知東邦大学・愛知大学との連携事業のより一層の充実を図る。
- (2) 新たな大学との高大連携事業を模索する。
- (3) 内外インターンシップ・キャリアガイダンスの充実で未来への志を育む
 - ①学外インターンシップの参加目標を25人とし、1・2年生に積極的な参加を働きかける。
 - ②キャリアガイダンス「先輩(社会人・大学生)に聞く進路ガイダンス」等の一層の充実と拡大を図る。
- (3)第一志望校合格の実現
 - ① 志望校に合格するための3年間の体系的な指導法の確立。
 - ② 個々の生徒に合った受験指導体制の強化と、教員の研鑽。
 - ③ 志望校合格まで、粘り強く挑戦する生徒を育てるための3年間通した指導の確立。
- 3. 持続可能な社会を担う人材の育成(校務・生活指導・国際交流・生徒会・学年)

「他者と共に歩む」~SDG s を意識した ESD 教育の推進~

(1) SDGs を意識した国際理解・平和・環境・防災・地域連携教育の推進

「総合的な探求の時間」や授業、学校行事、自主活動において、SDG s を意識し、脱炭素社会に向けての取り組み、修学旅行平和教育、

各種委員会活動などで、持続可能な社会について考える。

- (2) 2023 年度「UNESCO DAY」学校行事化に向けての準備 ユネスコスクールとして持続可能な社会に向けての取り組みを発展させる。
- (3) 夏期英語研修の拡充を検討する
- (4) 国際交流提携校の新規開拓 欧米、ASEAN 諸国などとの新たな交流を通じて提携校を開拓する
- (5) 外部機関、地域(名古屋市・名東区・平和が丘など)との関係の強化 各種外部機関の企画、名古屋市・名東区・平和が丘学区との共同プロジェクトに積極的に参加する。

4. 学校生活の充実(生徒会、生活指導、校務、学年、保健指導室)

「自分で考え自ら行動する」~自律的集団の育成~

- (1)生徒が主体的に企画運営し参加する自主活動の場を増やす。部活動では、運動部のみならず、文化部のより一層の活性化を図る。
 - ① HR などを活用した討論の場で、課題に対して「じぶんごと」として考える機会を増やすため、日常の学校生活の様々な場面でのマナーモラル、社会的課題、SDG s など、生徒自身に考えさせる機会、意見を発信し、確認し合う機会を提供していく。
 - ② 行事運営、HR 運営、部活動運営など学校生活の様々な場面で、生徒が「自分で考え、自ら行動」できるよう、生徒主導の範囲を拡 げていく。
- (2) 相談体制の充実

全ての生徒が学校生活を全うできるよう、できるだけ早く相談につなげる体制の一層の充実を図る。

- (3) 行事における ICT 利用の推進
 - ①コロナ禍においても ICT を活用し、感染対策をとりながら行事をできるだけ実施していく。
 - ②コロナ禍での経験をもとに、オンライン化で行事の効率化を図る。

- 5. 科・コースの充実と普通科教育の見直し(教務・進路・学年・科・コース)
- (1)「**目指す生徒像**」のもと、科・コースの充実を図る。

科・コースの改革・拡充発展のための検討など「新学力向上プロジェクト」の動きと連動して、科・コースの一層の充実を図る。

- (2) 2024年度国際探究コースの学科新設に向けての準備と検討を始める。
- 6. 学校運営の安定化と適正化(広報・教頭・理事)

~中学生・保護者に真に選ばれる学校に~

(1) 安定的な生徒募集

本校の良さ・実績をアピールし、一般受験者 2000 人を目指す。

- (2) 100 周年後の東邦教育の礎を築くブランディング推進と広報の充実
 - ① 学園ブランディングのマスターブランド化を意識し、「目指す生徒像」に向けての教育実践、本校の魅力を確実に外部に発信していく。
 - ② 対面とオンラインのハイブリッドで、中学生保護者へのアピール内容を・方法をより効果的なものにする。
 - ③ 東邦学園 100 周年記念事業の準備・100 周年に向けて内外への発信を積極的に行う。
- (3) 通信制課程設置の検討を開始するための調査研究を行う。
- 7. 学内環境の整備 (理事・教頭・メディア情報・事務)

「目指す生徒像」教育に向けて~生徒の成長・教職員を支える環境整備~

- (1) 生徒学習環境の整備
 - ① ICT 活用促進、探究学習の促進を支援する環境整備
 - ② 部活動生徒が参加できる補習などの体制整備の検討と実施。
 - ③ 生徒が学習できる場所の拡充・教員に質問しやすい環境づくり。
 - (2) 教職員研修の充実と教育力の向上 ~教職員の「学び」を促進する~

- ① TI 研修への参加促進
- ② ファインドアクティブラーナーなどオンライン研修への参加促進
- ③ 新人研修・新人世代への社会人教育の充実
- ④ 公開授業・研究授業の活性化
- ⑤ 授業アンケートを活かす教科活動
- ⑥ 教職員研修会の充実
- (3)業務の合理化と働き方改革の推進(理事・校長・教頭)
 - ① 会議終了時間の厳守。
 - ② 部活動ガイドラインの遵守。
 - ③ 分掌等と「廃止する業務」「合理化できる業務」について検討する機会を持つ。
 - ④ ノー残業デーの定例化などを検討する。
- (4) 教職員職場環境の整備
 - ①教職員休憩室設置など福利厚生設備の充実